

岡山県 近代化遺産

2

三石灯りの街 地域ぐるみで手づくり

Mプロジェクト協議会
(備前市)



ろうそく立てを作る子どもたち

ウォークや写真展も

三石地区は古くからろうそく、耐火レンガの町として栄えた歴史を持つ。その町の魅力を再発見し「役割を終えた建築物を公益性のある新たな活用でよみがえらせよう」と、Mプロジェクト協議会を立ち上げた。M

ろうそくの明かりにはほっぺりと浮かんだ三石小学校旧講堂や近くのれんがアーチ橋(四列穴門)。秋の一夜、備前市三石地区一帯が二千本のろうそくで幻想的な雰囲気に包まれる。ライトアップは「三石灯りの街」二〇〇四年に結成されたMプロジェクト協議会(宗像和夫会長)のまちづくりイベント。本年度の燈まつくり祭典大賞に選ばれた。



宗像和夫会長

は「三石」と住民、商工会、老人会、行政など「みんな」の意を合せている。まず取り組んだのが〇四年五月に開催した三石再発見ウォーク。その際、参加者が撮った町の写真を八月に展示、人気コンテストも行った。その結果、コンテスト三石小判講堂、老朽化で使用できなくなっているが、住民の要望で残されている。

小中生もイベントに参加

昨年十月の三石灯りの街では、紙コップに和紙を巻いたろうそくを立てて小中学生、住民らが手

づくり、旧講堂のある三石小クラウンロードや四列穴門、神社参道などに並べた。参加した三石中三年、森夏加菜さん(七)は「作業は大変だけど、とてもきれいだ。イベントは三石の自慢になる。今年もお手伝いしたい」と言う。Mプロジェクトは今年三回目を迎える。八月に「写真で観る三石今昔」、十月に「三石灯りの街」を予定する。会長の宗像さん(七)は「日先を変えた取り組みで、飽きのこないイベントにしたい。郷土への愛着が深まればうれしい」と話している。



森夏加菜さん



ろうそくの明かりで浮かび上がった三石小旧講堂

三石小学校旧講堂
建築年・1937(昭和12)年
JR山陽本線・四列穴門
建築年・1891(明治24)年



ライトアップされた四列穴門



四列穴門
全長10に達する山陽本線の通過のれんがアーチ橋。1891(明治24)年~1911年に建設が完成。1911(明治44)年に備前市庁舎移転のため、現在は壊れている。



三石小学校旧講堂
1937(昭和12)年に建設。半壊状態。平成7年(1995)に、外観は元のままに復元された。現在は壊れている。

